



第101回全国高校サッカー選手権

めざせ 全国制覇

日本大学藤沢高校

いま再び、桜旋風

初の全国優勝を目指す日大藤沢は、12月29日、等々力競技場で初戦を迎える。3年ぶり6度目の出場。「一体感」をスローガンに、個性豊かな選手が全国の舞台に挑む。

1 岡本亜鶴(GK)	16 仲川颯一(MF)
2 アッパ勇輝(DF)	17 岸本尚也(FW)
3 楠本爽(DF)	18 関田向陽(MF)
4 宮崎達也(DF)	19 森重陽介(FW)
5 尾野優日(DF)	20 吉田亘之介(MF)
6 野澤勇飛(MF)	21 城田優(MF)
7 宗次柊磨(MF)	22 川地皓(FW)
8 岡西亞憐(FW)	23 會津恒毅(FW)
9 有竹翔吾(FW)	24 片岡大慈(DF)
10 安場壯志朗(MF)	25 斎藤直晴(GK)
11 岡田生都(MF)	26 柳川大智(DF)
12 野島佑司(GK)	27 國分唯央(DF)
13 植田海音(DF)	28 萩原大地(MF)
14 前田俊亮(DF)	29 山上大智(FW)
15 高橋絢斗(MF)	30 布施克真(MF)

「苦しい時はスタンドを回る」。決勝戦日、応援側の3年生部員が涙ながらに伝えたメッセージが宣言になつた。楠本文雄校長率いる千人規模の応援団、エールを送つてくれた地域の人たち。佐藤輝勝監督は「全てが一体となつた『チーム大藤沢』でこそつかめた勝利」と振り返る。

38年ぶりの「藤沢勢対決」としても注目を集めた対戦。両者と共に、自らボールを動かす攻守一体の強気のスタイルを讃美され、真っ向からぶつかり合う激しい試合となった。延長にもつれ込む激戦を制したのは日大藤沢。喜びを爆発させる選手たち。浦好きが見えるピンクのスタンドは、「桜吹雪」ながらだった。

全国の舞台で「桜旋風」を再び。11月13日、全国高校サッカー選手権神奈川県予選の決勝がニッパツ三ツ沢球技場で行われ、日大横浜が湘南工大付属を破り、3年ぶり6度目の全

迎える初戦、対戦相手は西原（沖縄）。2年連続5回出場、奇しくも神奈川対沖縄のカードは昨年同様。

「目標は日本一」と選手は全員口を揃える。J清水に内定しているFW森重陽介君をはじめ、全場面で活躍できる個性豈かな選手たちの思いは一つだ。2015年、全国4強に勝ち進み、日藤カラーのピンク色から「桜旋風」と騒がれた。

いま、再び、日藤のサッカーで旋風を巻き起こす。

ムの一体感が勝利の鍵となつた。キヤプテンのGK岡本亜鶴君は「まどまらない時期もあつた。インターハイの敗北を経て、選手の意識が変わった。『体感を持って勝てる』といいを共にできた」と振り返る。その結果が花開いたことは決勝の試合でも証明されている。

め、佐藤監督が今年新しく導入した策は「呼応」だった。誰かの発話に対し、返事だけでなく、自身の思いを伝えて応える、シンプルな方法だ。

これがピタリとハマった。個

A photograph of two female students from the Faculty of Education at Kyushu University. They are wearing dark blue tracksuits with white stripes on the sleeves and a white bird logo on the chest. They are standing outdoors in a grassy field with trees in the background.

「ずっと見てきた」
3年生アカデミー

「皆の頑張りは1年からずっと見ていた」とエールを送るのには3年生マネジャー、磯田小春さん（左）と岩本真咲さん。「全国制覇」という目標に向かい選手と同じ強い気持ちで大会に臨む。「夢叶える時の時を信じて」



攻めの守護神

常にチームファーストの頼れるキャプテン。心も体も揺らがない攻めの守護神はチームの安定感を支える。「泥臭い方がかっこいい」



固西重憐

50メートル6.1の俊足を生かし攻撃の起点としてチームを牽引。「質の高いドリブルでチャンスを作り得点に結び、勝利に貢献したい。



野澤勇飛君

頭脳フレー得意とするいふし銀。常に冷静な判断で中盤の核を担う。「全国でも自分たちらしいプレイを見せ、気持ちよく勝ちたい」



アツバ勇輝君

光る危機察知力と天性のバネを生かしたヘディングで空中戦を制す際の攻防の要。「先輩から教は無い黒いも力にこそ勝利つかむ」

佐藤輝勝監督メッセージ



信ずれば、花聞く

この一年、チームとして常に順風満
たったわけではありません。でも、皆が「
ません。でも、皆が「国」を願い、信じ
長を続けてきました。我慢するほど、
しい満開が待つてます。私はそう信じて
ます。